

近江米新品種「滋賀 83 号」  
生産者説明会



令和5年(2023年)2月  
滋賀県

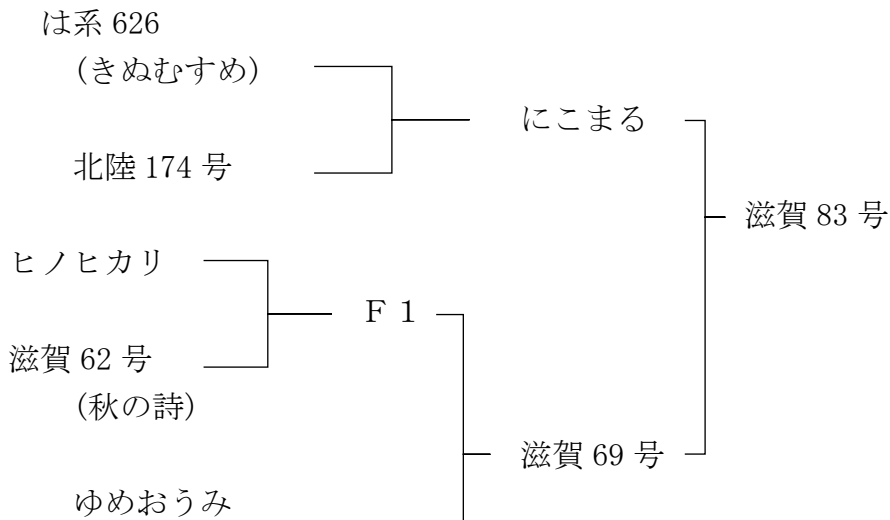


## 1. はじめに

- 本県では、近年、中生熟期の品種においても、出穂期以降の台風や長雨への遭遇、登熟期の高温等により収量や品質が低下するケースが増えている。この熟期の主要品種である「日本晴」では食味、「秋の詩」では耐倒伏性が劣るといった問題がある。また、これらの品種は高温登熟に対して耐性を備えていない。
- こうした中、滋賀県農業技術振興センターにおいて、中生の晩熟期で食味、収量性、玄米外観品質が優れ、かつ耐倒伏性、高温登熟性が強く安定した生産が可能な品種「滋賀 83 号」を育成した。
- 「滋賀 83 号」は、「コシヒカリ」と同等以上の食味、かつ多収であり、気候変動下においても栽培しやすい。
- 近江米ブランドを牽引する主力になると期待できる品種であり、令和 5 年産の作付面積は約 60ha の見込みで、令和 6 年産には 500ha の作付けを目標として滋賀県全域を対象に推進を図ることとしている。

## 2. 育成の経過

- 「滋賀 83 号」は「にこまる」を母、「滋賀 69 号」を父として 2009 年に人工交配をして得た後代から世代促進を利用した集団育種法により育成。



### 3. 「滋賀 83 号」の位置づけと栽培上の特色

#### (1) 育成の背景等

- ・高温や台風等の気候変動に対応した中生の品種育成
- ・コロナ禍でも消費者に選ばれる新たな近江米の生産
- ・農水省の「みどりの食料システム戦略」：CO<sub>2</sub>ゼロエミッション化の実現、化学農薬・化学肥料等の削減、有機農業の拡大 など

#### (2) 位置づけ

- ・食味、玄米外観品質、収量性に優れた中生品種
- ・環境こだわり栽培基準より、さらに化学肥料・化学合成農薬を削減した栽培
- ・本県の農業者がオーガニック農業に取り組むきっかけとなる品種

#### (3) 栽培方法による区分：①と②の2区分があります。

共通：①または②の条件で栽培され、「滋賀県環境こだわり農産物」の認証を受けたもの

#### ①「化学肥料や殺虫・殺菌剤（化学合成農薬）を使用しない栽培」

＜肥料＞本田において化学肥料不使用で栽培  
→ 有機質肥料の利用、大豆・野菜跡等の活用、たい肥・緑肥等の活用 等  
＜農薬＞原則、殺虫・殺菌剤（化学合成農薬）を使用しない栽培

- ・除草剤は使用可能
  - ・これまでの病虫害発生状況により、予防的防除（箱施用剤等）を削減
  - ・畦畔草刈り＋色彩選別機の活用で、カメムシ防除の削減
  - ・病虫害の常発地域（ほ場）を避けることによるリスク回避
  - ・いもち病やウンカ類等の多発時には一部農薬の使用も可能
- ※ただし、化学合成農薬を使用した場合、ロゴマークは使用できない（検討中）。

#### ②「オーガニック栽培」（有機 JAS 認証を受けたもの）

#### (4) 生産者の要件

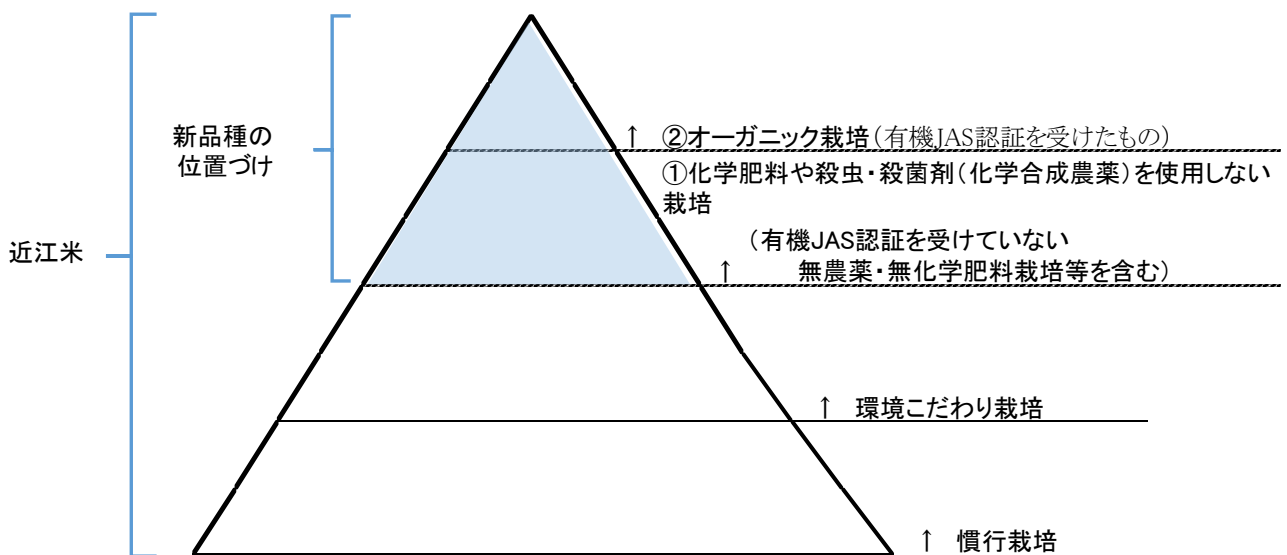
- ・「環境こだわり栽培」または「オーガニック栽培」の栽培実績があること。
- ・流通段階において一定ロットを確保するため、原則 60a 以上作付けすること。
- ・病虫害防除に関して、地域の共同防除体制等との棲み分けや合意形成が可能であること。
- ・品種名のほ場看板を設置し、生産の PR を行うこと。
- ・全量種子更新し、自家採種は行わないこと。
- ・種子を第三者に譲渡しないこと。
- ・1.85mm 以上の網目で調製すること。
- ・出荷にあたっては農産物検査を受検すること。
- ・近江米振興協会が主催する研修会や情報交換会等に参加すること。

### (5) 集荷・流通

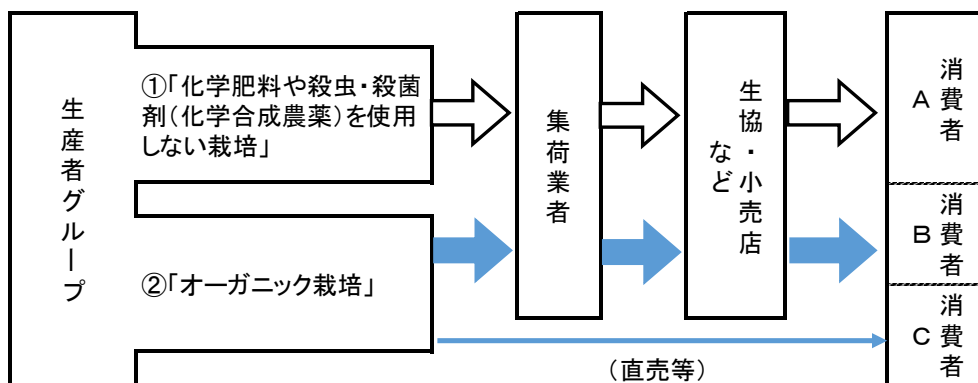
- ・栽培方法①、②ともに、当面はJAまたは集荷団体を通じて一定のロットを確保し、生協や学校給食などへ特色ある米として流通させる。
- ・また、②については、生産者独自の販売ルートを活用することも可能とするが、オーガニック市場でのPRを図るため、その販売には共通のPR資材（コンセプトやデザイン等）を使用することを要件とする。
- ・なお、集荷業者を介せず直売する場合は、販売先へのPR方法、販売価格、販売先等の評価の情報を近江米振興協会へ提供すること。

### ■水稲新品種の位置づけイメージ

<化学合成農薬・化学肥料の使用量での区分>



### ■生産者と流通先のイメージ



統一したコンセプトでの流通

※統一精米袋、ロゴマーク(シール)など

#### 4. 品種特性について（表1、図1および図2）

##### 【生育全般】

- 成熟期は「日本晴」より2日遅く、「秋の詩」より4日早い、中生の晩熟期。稈長は「日本晴」より10cm、「秋の詩」より21cm短く、耐倒伏性に優れる。
- 収量性は「日本晴」、「秋の詩」より優れる。玄米の千粒重は「日本晴」より大きく、「秋の詩」と同等。玄米の形状は「日本晴」、「秋の詩」よりやや細長く、玄米表面の縦溝がやや目立つものの、色沢は飴色で光沢は優れる。高温登熟であっても白未熟粒は生じにくいことから、玄米外観品質は優れる。
- 「滋賀83号」は移植後の初期生育が比較的旺盛で分けつを確保しやすい一方で、初期生育が旺盛過ぎると穂肥時期である幼穂形成期に至るまでに栄養不足となり葉色が極端に低下する場合がある。したがって、初期生育が旺盛になり過ぎないように基肥の過剰施肥を避けつつ、6月後半～7月前半にかけて葉色が極端に低下しないよう、場合によっては追肥が必要となる。

##### 【食味】

- 食味について官能試験による総合評価では「日本晴」、「秋の詩」よりも優れる。食味に関連するタンパク質やアミロースの含量は「日本晴」より低く、「秋の詩」と同等。味度は「秋の詩」、「日本晴」よりも優れる。
- 短強稈なのでほとんど倒伏しないが、穂肥が多過ぎる場合には、未熟粒の増加や食味の低下が懸念される。一方、登熟期間に栄養が不足すると減収や背白粒の増加によって品質低下する場合もあることから、穂肥施用は収量と玄米外観品質、食味のバランスを考慮することが必要。

##### 【病害】

- 葉いもちほ場抵抗性は「秋の詩」より優れ、「日本晴」と同等の“中”、穂いもちほ場抵抗性は「秋の詩」より優れるものの、「日本晴」よりやや劣る“やや弱”。なお、いもち病真性抵抗性遺伝子型はPiaおよびPiiであると推定される。
- 縞葉枯病に対しては既知の抵抗性遺伝子を保有せず罹病性。
- いもち病に対する抵抗性は十分ではなく、縞葉枯病に対しても抵抗性を備えていない。したがって、これら病害の常発地では栽培を避けることが重要。

#### 参考 産地品種銘柄と品種登録について

「滋賀83号」は、令和4年度に産地品種銘柄に申請済みのため、令和5年産米から産地品種銘柄として農産物検査を受検できます。しかし、系統名で申請しており、品種登録の出願公表が5月以降となった場合、令和5年産米は玄米袋に系統名（「滋賀83号」）を記入し、精米には品種名を記載することとなります。

表1 特性概要

	滋賀83号	標)日本晴	比)秋の詩
熟期	中生の晩	中生の晩	中生の晩
出穂期(月.日)	8.09	8.08	8.13
成熟期(月.日)	9.17	9.15	9.21
稈長(cm)	73	83	94
穂長(cm)	20.5	20.4	20.6
穂数(本/m <sup>2</sup> )	389	386	372
倒伏程度(0-5)	0.1	0.4	1.4
精玄米重(kg/a) <sup>2)</sup>	61.1	56.5	57.7
同上比率(%)	108	100	102
玄米千粒重(g)	22.8	22.4	22.6
玄米外観品質(1-9) <sup>3)</sup>	4.0	5.0	4.6
食味官能試験 総合評価 <sup>4)</sup>	0.10	-0.55	-0.21
玄米タンパク質含量(%) <sup>5)</sup>	6.28	6.66	6.26
アミロース含量(%) <sup>6)</sup>	17.7	18.7	17.3
味度 <sup>7)</sup>	79.7	70.5	76.3
耐倒伏性	強	やや強	やや弱
穂発芽性	やや難	中	やや難
葉いもちほ場抵抗性	中	中	弱
穂いもちほ場抵抗性	やや弱	中	弱
縞葉枯病抵抗性	罹病性	罹病性	罹病性
高温登熟性	やや強	やや弱	やや弱

1) 2015年～2022年 奨励品種決定調査標肥区(5月10日頃植、基肥0.45kgN/a、穂肥0.25kgN/a平均)。ただし、アミロース含量は2018年～2021年、味度は2017年～2021年の平均値。

2) 玄米調製網目幅は2015年は1.80mm、2016年以降は1.85mm。

3) 目視評価、値が小さいほど良い。4.5以下が農産物検査1等に相当。

4) 基準品(農業技術振興センター産コシヒカリ)との7段階相対評価(-3～+3)。パネル約20名。

5) 静岡精機(株)米麦分析計BR-5000で測定。水分15.0%換算。

6) ビーエルテック(株)オートアナライザーⅢ型により搗精歩合約90%の白米を粉碎し測定。

7) 東洋ライス(株)トーヨー味度メーターMA-30Aおよびマルチ味度メーターMA90システムによる測定値。

8) 化学肥料による試験データ。「化学肥料や殺虫・殺菌剤(化学合成農薬)を使用しない栽培」の場合、約10%程度は精玄米重が少なくなると想定している。



図1 稲株の比較



図2 玄米の比較

## 5. その他

### (1) 栽培計画・記録の提出について

- 令和5年は「滋賀83号」のプレデビュー年であり、市場からの評価を得る必要があります。また、特色ある米として流通させるために、環境こだわり栽培基準より、さらに化学肥料・化学合成農薬を削減した栽培またはオーガニック栽培とします。
- 事前に栽培計画を作成いただき、病虫害・雑草防除法や施肥管理を把握するとともに、栽培期間を通じた生育状況や、収量、出荷先の評価等についても情報収集しますので、播種作業が始まるまでに栽培計画を作成するとともに、11月には栽培記録を作成の上、ご提出願います。
- 別添の記入例を基に作成の上、以下の担当あて郵便、FAX等でご提出ください。

〒520-8577 大津市京町四丁目1番1号

滋賀県農政水産部みらいの農業振興課

水田農業・作物振興係 担当：塚本

またはFax：077-528-4882、Mail：tsukamoto-takayuki@pref.shiga.lg.jp

栽培計画の提出期限：令和5年3月15日（水）

栽培記録の提出期限：令和5年11月20日（月）

※当栽培計画・記録については、「環境こだわり農産物認証」制度における生産計画・生産記録とは異なります。また、提出先・提出時期が異なりますのでご注意ください。

### (2) 玄米サンプルの提出について

- 産地間競争が激化する中、今後、近江米として販路を確保し、米の生産量を維持していくためには、品質および食味の高位安定化と、消費者や実需者等との結びつきを強めていく必要があります。
- 生産者個々の食味水準やばらつきの程度を把握することで、栽培改善を図るとともに、将来の流通にもつなげることが必要です。
- そこで、令和5年産の生産者の玄米サンプル（約3合）を収集し、県（みらいの農業振興課）にて食味計や穀粒判別器による理化学分析を実施します。
- なお、得られたデータは生産者に返信するとともに、次年作への栽培技術の検討に用います。

### (3) 種子の購入と配送時期について

- 令和5年産米における種子の価格については、「みずかがみ」の初年度と同様、「その他うるち米」に準じた価格（「秋の詩」「日本晴」等）を予定しています。
- 種子の配送時期については、2/20の週を予定しています。なお、配送場所については、別途、各集荷業者ごとに確認願います。
- 令和6年産以降の種子については、滋賀県種子調製センターでの取り扱いを検討しており、その場合には網袋単位での対応を予定しています。